

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970200038		
法人名	有限会社 かもん		
事業所名	グループホームいまざと元気村2		
所在地	奈良県大和高田市今里町19-36		
自己評価作成日	平成30年1月26日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2990200038-00&PrefCd=29&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成30年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者がゆったりと過ごしていただける空間づくりをしています。外出の機会を増やし、外へ出る楽しみを持っていただけるよう支援しています。自家農園で栽培した季節の野菜をふんだんに使用して毎日の食卓を豊かにしています。職員間のコミュニケーションを図り、和気あいあいの中、入居者様のお世話をしています。日々学びながら個人個人のスキルアップにも繋がるよう職員一同努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

安心、安全の名のもと、利用者を快適温度の建物内で至れり尽くせりの支援を行う施設の多い中、当施設は独自の取り組み方法として毎日30分の散歩を欠かさず、安易にオムツを使わず、積極的に外出することの集大成として、利用者全員参加の1泊旅行を実施している。運営者の決断と利用者側に立った日々の支援の積み重ねとしての結果であり、職員も実に明るく取り組んでいる。「人権尊重、身体拘束をしない、普通の生活を楽しむ」の理念が職員に浸透しており、理念を忠実に実践している事業所であると感ずる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示し、管理者、職員とも常に理念を念頭に置き日常の業務を行っている。	「人権尊重、身体拘束をしない、地域交流、各利用者の充実した生活支援」との法人理念を基に管理者と職員は利用者個々に合わせたコミュニケーションの取り方を配慮し、笑顔の絶えない施設作りに努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩の中で挨拶を交わしたり、地域の祭りや行事には積極的に参加したり、当ホームの行事には近隣の方をお招きして日々交流をもっている。	利用者は1日30分の散歩を継続し、出会う地域住民と挨拶を交わしている。運営推進会議、ボランティア、保育園児の来訪、祭りへの参加など地域との交流を図っているが、徐々に減少しつつある。事業所周りは畑で囲まれており、地域住民と利用者との日常的な交流は難しい。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症やグループホームへの理解を深めるため、ホーム便りを2ヶ月に1回地域に回覧している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開き、地域や行政の方々から意見を頂きサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議の参加者の顔ぶれが同じの時間が多く、話が弾み様々な地域の情報が得られている。しかし、会議がマンネリ化している感がある。開催曜日、時間など行政職員とのマッチングが難しく、家族の参加は少ない。	会議へ家族の参加を促す積極的な働きかけや家族が興味を持ちそうな勉強会を組み合わせるなどマンネリ化を防ぐ新しい取り組みを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護福祉課や地域包括支援センターへ出向いたり、電話で連絡や報告を行い、良好な協力関係を築くよう努めている。	市担当者とは運営推進会議や電話での連絡、報告、来庁時の訪問など関係の継続に努めている。市主催の福祉祭りに利用者と共に参加し「らんとも」では一緒に走った。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の理念に掲げ、研修の場においても職員に理解を深めてもらえるよう日々取り組んでいる。玄関の施錠については、外部からの不審者を防ぐために行っており、ご家族にも説明している。	理念にも掲げている通り身体拘束をしないケアを職員に浸透させるために年1～2回は研修時に身体拘束について話し、日常の支援の中でも話している。帰宅願望の強い方には、出来るだけ散歩に出かけ気分転換を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で取り上げたり、行政から送られてくる資料の提供を行い、職員間の申し送りの徹底をはかり防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月行っている研修会の中で、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けて知識を深め、必要時に活用できるよう取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明後に、疑問や質問については納得を得られるように心掛けている。またその都度、管理者が対応できる体制をとっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などイベント時において意見や要望を聞く機会を設けている。	家族来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴くようにしている。法人合同の運動会や食事会などのイベント時にも意見を述べる機会を作っているが苦言や提案などは出されたことはない。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月研修会を行い、必ずスタッフ全員が意見や要望を発言する機会を設けて、提案する内容が反映されるように努めている。	毎月開催の全員参加の研修会では利用者の様子、改善案、イベントについてなど活発な話し合いがされている。毎週法人代表者が事業所を訪れ、職員が直接意見を述べる機会を作っている。事業所は職員の仕事に対する向上心を高めるためキャリアパス制度を導入し、研修参加は出張扱いとし、研修費用も負担している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課があり、自己評価をしたり面談を行っている。また、キャリアパスの導入で各自向上心を持てるよう日々職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と判断した研修に参加を勧めている。研修内容を事業所の研修時に発表してもらい情報の共有を図っている。また、新人スタッフには一定期間担当指導者について介護力アップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等への参加により、交流する機会を設けており、ネットワークづくりやサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の方とゆっくりコミュニケーションをとれるように努めている。特に初期は夜間に不安を持たれないように安心の持てる環境づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人に最適なサービスが提供できるよう、ご家族の想いや要望を時間をかけてお聞きしている。また、初期はお互いの理解を深められるように、まめに連絡を取り合うようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望をお聞きし、職員、主治医との話し合いを行って、必要とされているサービスに繋げている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物の畳み、野菜の皮むき等、日常の家事を一緒に行い、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人に対するご家族の思いを聞き、それに沿えるよう支援し、生活状態に変化があれば共に介護体制に加わって頂き一緒にご本人を支えていける関係作りをしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会があれば、ご家族の理解を得たうえで、居室などで気兼ねなく話ができるよう支援している。	本人や家族から聴き取った利用前情報で生活歴や趣味、得意なことなどを把握している。家族の訪問がほとんどで、外食や盆正月、彼岸、年忌などで外出する利用者はいるが、外泊する人はいない。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団らん時にお互いの懐かしい話や共通の話などで会話が弾むように関わり、共同作業(家事手伝いなど)で、お互いが労り、支え合える関係が築けるように支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族からの相談にも随時対応し、情報交換や助言を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中でご本人のニーズを引き出し、ご家族から情報を提供して頂きその人らしい生活が送れるように支援している。	利用者や家族から直接聴き取った情報や、本人の言葉で書かれたフェイスシートから意向を把握し、利用開始後は利用者ごとに担当職員を決め、日常生活の中で話されることを聴き取るように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、保護者や入居前に関わられていたケアマネジャーに、ご本人の生活歴等の情報を提供してもらっている。また、日常の暮らしの中で何気ない会話や行動からも情報を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務交代時にきちんと申し送りをすると同時に、申し送りノートを活用し、スタッフ全員が共通認識として把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の研修で本人の課題を話し合い、ケアマネジャーを中心にモニタリングを行い、家族の意向も聞いて介護計画に反映している。	利用者や家族の思いや意向を把握して職員が話し合い、暮らしを主とした介護計画を作成している。モニタリングを行い、アセスメントに連動させて解りやすい1つの表にまとめている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を分かりやすく個別に記録し、毎月のケアカンファレンスで情報を共有し、介護計画に反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況に合わせて受診介助を行い、入院時は手続きや洗濯物などの支援等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の持っているネットワークを活かし、ご本人に応じた支援を行えるよう努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診時、また、往診時に本人の変化等について相談をしている。そして、日々看護師による訪問を行っていて、変化があればその都度ご家族に連絡している。	事業所の協力医が月2回、歯科医が月1回訪問診療を行っている。定期通院する方があり家族が同伴している。週に1回認知症デイケアに参加している。法人内の看護師が定期的に訪れ健康管理やメール、電話を含め緊急時24時間対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置しており、医療への対応もできる体制作りをしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室と情報交換している。病院訪問時も医師や看護師と情報交換するようにして良好な関係を構築している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向をまず聞いている。次にご本人の体調の変化に合わせてかかりつけ医、看護師を交えたカンファレンスを行っている。	利用開始時に看取りケアは行わないことを家族に了承してもらっている。体調の変化や緊急時には医師、看護師を交えて話し合いや助言をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修会で応急手当や急変時の対応について話し合い、職員全員が対応できるよう勉強会を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行うと同時に避難方法等について話し合い、誰もが対応できるよう周知徹底している。	年2回避難訓練を行い、内1回は夜間を想定し職員だけで行っている。地理的条件もあり地域代表と水害について話しをしている。	避難訓練は利用者参加が望ましく、特に夜間における避難時間設定や経路、利用者の動きなど訓練の実施結果を話し合われることが望まれる。運営推進会議においても災害時の避難や地域との協力体制について密な話し合いを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
は					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と常に考え、お世話させて頂いているという思いを意識しながら対応している。	利用者は職員の態度や感情に敏感であることを常に意識し、言葉掛けに注意している。居室の引き戸をすりガラスにして、見守りつつプライバシー保護を図っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症のレベルに合わせて、思いを表現できる場面を作り、自己決定できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて、その日、その場面で臨機応変に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はご自分で選んでいただくよう声かけをしている。髭剃りやヘアースタイル、お化粧品などはその人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家農園で採れた野菜の整理や食事の準備、片付けは一緒に行っている。また、職員も一緒に食卓を囲んで食事を楽しむようにしている。	管理栄養士がたてた大まかな年間献立表を参考に手作りの食事を提供している。自家菜園の野菜を使い、味噌も手作りしている。箸並べやお茶入れなどお手伝いする利用者もあり、職員も一緒に食事を楽しんでいる。ケーキやおやつを作ったり、時には外食することもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度きちんと把握し、その方の状態に応じた摂取量になるよう支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、支援を行っている。入居者の皆さまも歯磨きが習慣となっている。また、訪問歯科による口腔ケアも毎月行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導の声掛けで入居者の自尊心を傷つけないよう注意している。	適宜な声かけでトイレ誘導を行い、ほとんどの利用者はリハビリパンツで対応している。毎朝の散歩が排泄意識や筋力の維持に効果的であり、排泄自立への支援に繋がっている。夜間はセンサーマットを使用しベッドからの立ち上がりを感じている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握、散歩や体操、食べ物や水分補給などの工夫をしている。便秘がちの方は医師、看護師と相談し対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴時間は個人に応じて対応しているが入浴日は決めている。	週に2回午後からの入浴とし、週1回通うデイケアでも入浴している。入浴剤を入れたり、ゆず湯にしたりと楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自居室にて常に安心して休息して頂けるよう配慮に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況の把握を行い、変化に応じ医師の指示を受け看護師と調剤薬局との連携で服薬指導を受けている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味嗜好や生活歴など背景を考慮しながら、本人が役割を持つことで生き生きとした生活ができるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員が個別ケアで支援を行って、出かける楽しみが持てるように支援を行っている。	毎日30分の散歩を継続し、花見やミカン狩り、系列施設と合同でのイベント参加など外出は積極的に実施されている。利用者全員が参加しての1泊旅行が企画されており、宿泊施設選びや当日の職員の心身の負担など大変だと思われるが、職員は明るく積極的に対応している。担当職員と買い物に行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さは理解されているが、認知が難しいため管理はホームで行っている。買い物に出かけた時は、それぞれ自分の財布からお金を払っていただけよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から希望があった場合、電話の操作を支援したり、話が上手く伝わらない場合は職員が間に入ったりして、ご家族や知人との繋がりを大切にしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのカレンダーや作品、写真、季節の掲示物、花を生けるなどで季節を感じていただき、居心地の良い空間作りに努めている。	食堂兼居間は、細長く続いた構造で、職員は台所から見渡すことができ、玄関にも近いため利用者の行動が見守りやすくなっている。正面のテレビの横に力士を紹介するユニークな掲示物があり目を引いた。廊下には利用者自身の言葉で書かれた目標が張り出されていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニング等で自由に好きな場所で、心地よく過ごせる場の調整に努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や寝具を持参して頂いている。また、思い出の写真なども居室に置いてもらい、落ち着く空間作りに工夫している。	ベッドとエアコンが備え付けられた居室は、仏壇、ハンガーラック、籐椅子や観葉植物などそれぞれの思いの物を持ち込み、住みやすい部屋作りがされている。入り口引き戸は3段ガラスの上を透明ガラス、下2枚をすりガラスにし、見守りとプライバシー保護を兼ねた作りである。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることには見守り、自己能力をできる限り活かしていただけるよう支援している。		